

tam tam

2020.01

VOL.02

02

P1 【特集】
書き初め大会2020

P2 【特集】
3市連携まちづくり互近助サミットを開催！

P3 隣の自治協さん「鴨庄地区自治振興会」
丹波市民、学びの窓「雪対策と地域自治」

P4 繋ぐ！市民活動「am*am」
活動事業者紹介「丹波乳業」



書き初め大会2020の様子と作品

日本の年中行事の1つ「書き初め(かきぞめ)」は、新年になって初めて毛筆で字や絵を書く行事です。1年の抱負や目標を筆に墨を含ませて和紙に書く、お正月ならではの習わしとして現在も各地で行われています。

1月11日(土)と12日(日)の両日、市民プラザで開催した「書き初め大会2020」では、家族やお友だち同士、お1人でフラッと寄られた人など、子どもから大人までたくさんの方と穏やかな時間を楽しみました。

会場では氷上寿学級書道クラブの書道作品や、俳句愛好家さんのご協力による新春を詠んだ句や郷土の俳人が詠んだ句を飾り、12日には、氷上高校書道部と氷上寿学級の皆さんが希望者に書き方をアドバイスしました。書きあがった半紙をみんなでのぞき込みながら、初めて出会った人同士の会話が会場に広がっていきます。

これからも様々な団体の皆さんと一緒に、新しい出会いや交流が生まれるようなイベントを企画、実施していきます。



Topics 3市連携まちづくり互近助サミットを開催！

2019年12月14日ポップアップホールにて、「3市連携まちづくり互近助（ごきんじょ）サミット」が開催されました。このサミットは福知山市・丹波市・朝来市の3市の地域自治組織がそれぞれの地域の特色を活かした独自の取り組みを発表し、それを通して現場を担う者同士の学び合いや磨き合い、また広く知り、深くつながることを目的としています。

福知山市の夜久野みらいまちづくり協議会、丹波市の中央地区自治振興会、朝来市の与布土地域自治協議会が発表し、参加者は、それぞれの団体の事例を真剣な眼差しで聞いていました。その後の意見交換では自分

の地域の課題を交えながら多くの質問や意見が出ました。

また、後半の懇親会では、地域のPRや活動の紹介、皆さんに伝えたいことなどを発表する地域紹介コーナーがあり、自ら手を挙げた団体が頑張っていることや販売物のPRなど



を行いました。

各市・各地域で組織運営や活動内容は異なりますが、共通した課題で活動する方々同士、話題が尽きない様子で、今後も3市が更なる学び合いの交流を深める良い機会となりました。



丹波市「中央地区自治振興会」では、地域づくりにつながる期待される地域活動やサークルに対し応援金を助成する独自の制度について紹介されました。この制度は1年ごとに助成を行うサークルを決定し、過去にも様々なサークルを支援しており、今回は『Bee 夢クラブ』という養蜂やはちみつの販売、蕎麦作りを行う自主活動サークルの事業について取り上げられました。この地域応援事業を通して、「多様なサークルが誕生し人材発掘へとつながる」ことによって、自主的な活動が地域の宝となり住民がその活動の一番の応援者となることを大切にされています。



福知山市「夜久野みらいまちづくり協議会」では、経済活性化部会、定住促進部会、教育・文化・スポーツ部会、福祉・あんしん部会、専門部会（プロジェクト）の5つの部会での活動について紹介されました。それぞれ部会で取り組む地域課題は異なりますが、基本的な行動原理として「行政に頼ることなく、自分たちにできることをやっていく」ことを大切にされています。また、質疑応答では、会議の進行の仕方に関する質問に対し、会議ではマイナスの意見は言わないことや対話が大切であり、それが会議をうまく進行するための秘訣だと話されました。

朝来市「与布土地域自治協議会」では、『みんなで取り組む受け入れ大作戦』と題した若者の移住定住促進プロジェクトについて紹介されました。実際に移住した方の事例では、先輩移住者である地域おこし協力隊が関わることで、住民による空き家の掃除や引っ越しのお手伝いにつなげることができたこと、そして、新規移住者と地域の交流はオープンマインドを醸成し、多様なチャレンジを応援する雰囲気につながっていることという点を強調されていました。質疑応答では、移住者の捉え方について、お客様ではなく地域をつくっていく同志として迎える体制が大切だと話されました。



隣りの自治体の 皆さんとの

TONARI no
JICHIKYO san

鴨庄地区自治振興会

地元へのこだわりを忘れない交流イベント

鴨庄地区は市島地域の東南に位置し、人口約 1,300 人、約 530 世帯、8 自治会の小学校区です。鴨庄コミュニティセンターを拠点に「みんなが力を合わせて、楽しく・住みよい鴨庄をつくろう」をスローガンに活動しています。

田んぼの土手に住民がアイデアを出して製作した 51 体のユニークな案山子が並ぶ「案山子まつり」、香川県さぬき市の鴨庄漁業組合との交流やのど自慢大会・餅つきなどで盛り上がる「ワイワイふれあい交流会」、住民が育てたコシヒカリを使った手作りラベルの生酒「百人一酒」など様々な事業やイベントを通して、地域の賑わいと住民の交流を生み出しています。それぞれの活動に地元を愛する住民のこだわりを感じます。

地域を支える若者たちの意見を生かす

20～40 歳代の男女 9 名が集う「若鴨言員会（わかがいんかい）」は役員さんの発案で、若者目線で事業への意見や提案を行っています。また提案したからには自分たちも事業に関わり、知り合いに声をかけて宣伝したり、準備や当日の運営など精力的に振興会の活動に参画しています。

委員の淵上伸二さんは、「お手伝いだけではやらされ感が残り、嫌だなと思います。また役員さんとの信頼感があるからこそ、お互いに言いたいことを言えるんですよ。」、同委員の山内歩さんは「地域の先輩たちが守ってきた伝統と、今の若者視点を合せていけば魅力ある活動が広がると思います。」と語られました。地域コミュニティ活動推進員の永井登さんも 2 人の話を温かく笑顔で聞いておられました。

様々な世代や性別の住民が参加しやすい事業になるように、一部の役員さんだけでなく若者や女性の意見も取り入れることは重要なことです。そのためにはお互いが尊重しあえる関係づくりが求められそうです。



若鴨言員会の 2 人と、推進員の永井さん

丹波市民、学びの窓

雪対策と地域自治

近年、自然災害が毎年のように発生するようになり、防災・減災が叫ばれています。2017 年には、22 年ぶりの大雪に見舞われ、自動車や電車は止まり、住民総出で雪かきをしました。そこで「雪対策」をテーマに書こうとしたものの、今年は全く雪が降りません。「氷上から青垣に向けて、カーブを 1 つ曲がるごとに雪が深くなる」と耳にするので、実際に調査してみようと考えていましたが、実施できませんでした。

丹波市は、青垣地域で豪雪地帯に指定されていますが、山南地域では自動車の冬用タイヤを使用しない方も多く、除雪が必要な機会も年に数

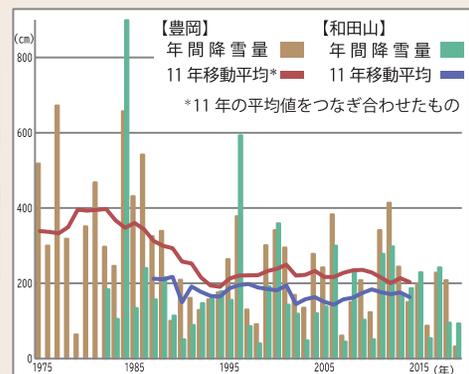
える程度しかありません。近隣データとして、豊岡や和田山の降雪量は、減少傾向にあります。年によって大きく変化しています。丹波市の雪害対策窓口である道路整備課によると、災害になっては困るが、常時警



2017 年の大雪(氷上町)

戒することもできず、各地域での除雪作業に補助金を設定し自主的な雪害対策を推進しているとのこと。

除雪は体力が必要な作業ですが、地域の担い手が少なかったり高齢者が多いのが現状です。どんな異常気象でも、地域課題でも最後の頼みは住民同士の結びつきなのかもしれません。



年間降雪量推移(気象庁)



繋ぐ!市民活動

一般社団法人 am*am

『一般社団法人 am*am(あむ あむ)』は「あるもの見つけあるもの磨きその先へ…」を合言葉に、国の就労支援制度を利用し、

就職に不安のある方の強みを引き出し生かしながら、就職に必要な知識獲得やスキル向上のための支援、実習・求職活動・就労

後のサポートを実施しています。

拠点としている『志進館(ししんかん)』(2019年4月オープン)は、代表の八尾由江さんが小学校やクリニック(小児科・児童精神科・小児心療内科)での勤務経験の中で、「子どもたちが成長し社会に出る時に、大きな“困り感”にぶつかることがあるが、社会への橋渡しとなる支援が少ない」と痛感したことをきっかけに、どの子にも“志のままに進んでほしい”という願いを込め、立ち上げました。

もともと木材市場だった場所を再利用して、地元の協力者の皆さんと共に作り上げたこの場所には「誰かの得意が誰かの苦手をパズルのように補う」という団体の方針が表れています。

障がいのあるなしにかかわらず、「ちがいを大切に認め合い生かし合って、この地域でずっと暮らし続けられることを目指して活動を続けています。



事務所外観



志進館でのイベント



地域の方との作業



活動事業者紹介

丹波乳業株式会社

『丹波乳業株式会社』は2014年3月に以前の酪農組合より乳製品の製造・販売を引き継ぎ、営業を開始しました。引き継いだ設備が老朽化する中、製品の品質維持に苦労もありましたが、飲まれ続けた牛乳を途絶えさせたくない思いで、地域の人に支えてもらいながら作り続けています。学校給食でも“ひかみ牛乳”は長く使われていて、親子2代に渡って飲まれていることに誇りと責任を持ち、続けていけることを目標にしています。

丹波市内14軒・但馬4軒の酪農家から集められる牛乳は、搾った翌日には工場に入ってくるため、フレッシュな状態で殺菌して製品にできるのが強み。殺菌前

の保存期間は製品の味にも影響します。ご自身でも乳牛を飼っていることから、

「酪農と製造をどちらも知っていることを生かして情報発信をしていきたい」と語る社長の吉田拓洋さんは、製品や酪農を通して人をつなぎ、支えあって地域が活性化していけるよう、丹波乳業にできることを模索していきます。



吉田さんが経営する牧場



製品パッケージの展示



本社外観



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。